

東洋英和女学校幼稚園師範科の頃

I 白 井 愛 昭和3年師範科卒業

東洋英和女学校幼稚園師範科に入学したのが大正14年4月。私たちのクラスは全員で15名、そのうち通学生は3人で、あとはみんな寮生でした。通学生3人のうち1人は午後になると、本科の英語の授業に行くので午後からは2人きりでした。勉強は麻布教会の日曜学校の教室で部屋のしきりを取りはらい廊下も広げて行いました。机はラケット型のひじかけのついた椅子だけでした。教室は粗末でも先生方の講義はすばらしかった。岩村清四郎先生の「フレーベルの人の教育」、平岩宣保先生の「キリスト教史」など。

受持はミス・ドレークで、先生の講義は「母の遊戯」木版の和綴の本で英語まじりの講義でした。私たちの多くは地方の公立女学校の出身者の多いクラスでしたからすべてが珍らしく思われました。この木版の和綴の教科書は、もはや手に入れることができず、学校にそなえつけのものをかりて使いました。

10年位前に神田の本屋さんで見つけたと主人が買ってきたのが、この「母の遊戯」の下巻でした。なつかしく昔を思い出しながらページをくっていましたら持主の名前が書いてあり、それは一年生の時に手技を習った先生のものでした。

一年生のはじめの頃は体操の時間もありました。たすきがけて袴をはいた館先生は、やさしそうな先生で、とても体操の先生とは思われませんでした。きれいな声で「アテンション」などと云われるとますますまごついてしまいました。

毎朝小学生から師範科一年生まで全員講堂で礼拝が行われました。たしか金曜日の礼拝には聖書

の暗誦がありました。小学生などはすらすらと暗誦していましたが、私たちははじめてのことでしたから、まるで駄目、一案をたてて、前列の人の背中に聖句を書いた紙をはりつける苦勞もありました。今も詩編19篇など文語体ですとすらすら出てきます。

あの頃の東洋英和幼稚園の1日のプログラムは朝登園して暫らくすると、ホールでまろくなって腰かけて、先づ礼拝をしました。“うるわしき朝も”のさんびかをうたい、お祈りをして、先生のモーニングトーク。実習生はこのお話をみんなノートしておきました。その後しばらく楽しいゲームなどしてから各クラスに別れて、それぞれのお仕事をします。思い出すのはフレーベルの恩物です。小さな木箱に入った第六恩物などが一人一人に渡されて、お話ししながら、遊びながら、最後に又きれいに箱の中に片付けます。庭で遊ぶことはあまりありませんでしたが、幼稚園から5~6分位のところだったと思いますが、澤田さんのお宅の庭には度々全員で遊びに行きました。広い広いお庭で木が沢山ありみんな元気に走りまわりました。

いよいよ二年生になると、教育実習が始まります。午前中は実習園に直接行きます。私たちのクラスは英和幼稚園と安藤記念幼稚園、英和関係の十番にあった永坂幼稚園、霊南坂幼稚園位だったと思います。私は一学期は英和幼稚園のベビークラス、今の3才児です。福島壽美江先生のヘルパーでした。4坪位のお部屋に10人位でした。何しろはじめての経験ですから夢中でした。相手も

はじめてですから大変です。でもとても楽しい毎日で、お手洗いの粗相などの始末も何ともありませんでした。今思い出すと何ともほろゝえましい状態でした。

6月のある朝すてきな大きいバラの花束をかかえて登園してきた子供がいました。それは澤田君でした。「先生、僕は今日アルゼンチンで生まれました。」と澤田君から花束を渡されて、急いで私は福島先生を探したことをおぼえています。それは時々遊びに行った澤田さんの坊やでした。「エリザベス・サンダースホーム」をなさっていた澤田さんの御子息で、現在はそろそろ60才にお近い方でしょう。

三学期は安藤記念幼稚園でした。その頃はどの幼稚園も割合小さく小人数でした。朝、直接園に行き、お昼までの実習でした。朝の礼拝のオルガンを奏いたり、クラスの責任を持たされていきましたから、卒園の時のお仕事帖の整理など大変だったようにおぼえています。クラスは3クラスで先生は主任の明石光子先生、他に1人だけだったと思います。明石光子先生は、先に書きました「母の遊戯」の持主の先生でした。とてもきびきびした子供たちと一緒に楽しんでいらっしやるといふ感じの先生でした。

学校に帰ってきて午後の授業では、先生から手技の時間として、子供たちのための、いろんな製作をならいました。その中の一つで美麗式と云って折紙で作ったものが、びょうぶ折の15センチ位のノートにはさんであります。

最後の実習園安藤記念幼稚園では卒園する子供たちのための製作品のノートで苦労したことを覚えていますが今はなつかしい思い出です。

金曜日の午後は一年生と二年生全員が、幼稚園に集って何の時間といったか思い出ませんが、師範科を卒業された先輩が沢山いらして2時間位ゲームをしたり、リズムをしたり、みんな子供になって、丁度朝のサークルの様になって楽しみま

した。卒業されて就職した先輩方が、それぞれの園での遊びを披露したり、時には又先輩方の苦労話も聞かせていただいたり、実際にやっておられる方々ですから参考になりました。

なつかしい思い出のひとつに「枇杷」のことがあります。教室の窓から手のとどくあたりに、お隣りの家の枇杷の木があり、そろそろ午後の授業でねむくなる頃、枇杷の実がさそいます。私など寒い国に育った者は枇杷の実がゆれるだけで感激でした。お隣りさんもあまりお取りにならない様子で、先生の目をぬすんで取る楽しさは格別でした。それが師範科生の機関誌名「枇杷」になりました。「枇杷」の第1号は、私たちが一年生の時に二年生が主になって夜おそくまでかかって作成されました。部屋ではできないので、福島先生の部屋でしました。ドレーク先生も様子を見にいらして応援して下さい、謄写印刷で手作りのため、みんな真黒になってやりました。そして夜おそくぬるいお風呂にそーと入ったことなど、なつかしい思い出です。私たちが二年生になった時、先輩方が遠くから色々応援して下さい、3号、4号と出来ました。この時は通学生の私が原稿を持ち帰り印刷やさんにたのみ、表紙は兄が画いてくれて出すことが出来ました。何号迄でたのか今はおぼえていません。



「枇杷」は第1号大正15年から第8号昭和7年まで発行されたが、以降は「東洋英和女学校同窓会雑誌」と合併した。

枇杷 第一号

私達が幼稚園師範科に入学したのは、二・二六事件から間もない時で、世間の記憶にまだ生々しく残っている年であった。

当時の教室は、現在の中学部の別館校舎の三階にあり、一、二年のクラスの教室と合同教室の三室だけで、ライブラリーと体操場は女学科と共用し、リズムの時間は英和幼稚園のホールを使用した。一、二階は小学科、隣に別科の教室があった。

その頃の師範科生は、現在の小・中・高部と同じ型のセーラー服で金色の線が三本なのを着用、それに束髪が原則だった。但し二年になる時に、パーマをかけてもよろしいとお許しが出て、束髪は以後うやむやになってしまったようだ。

当時も現在と同じように土曜日休日、日曜日は教会へ出席する事が義務付けられていた。一年生は、一度登校してから女学科生と一緒に、学校の地続きにある麻布教会へゾロゾロ並んで行き出席した。そして師範科と女学科の一部の者が、松田孝一先生のご指導で聖歌隊の奉仕をした。

始業前の礼拝は、月曜日がマーガレット・クレーク講堂での合同礼拝、他の日は鳥居坂通りに面した校舎の四階にあるチャペルで、師範科だけの礼拝を守った。これは先生と学生が順繰りに、司会と奏楽を受持った。その頃師範科生はクリスチャンであることが条件とされていたから、受洗していない方は在学中に必ず洗礼を受けたのだった。

入学当初、主任のミス、レーマンが休暇でご帰国中で、お若くて美しいミス、ジョーストが責任をとっていらっしやった。

いざ授業が始まると目新しい課目にどきまぎさせられるばかりだったのに、加えてこの年から、青山学院神学部との交換授業も始まって、目の廻るような毎日を過ぎたものだった。



クリスマスページェント「降誕」昭和11年

師範科の主な科目は(先生方のお名前は敬称を略させて頂く)、幼児教育(ジョースト、レーマン、功刀嘉子)、心理学(高良とみ)、教育史(岩村清四郎)、国文(鶴沼さき)、倫理(丸山たみ)、ソーシャルサイエンス(レーマン)、恩物(キュークリヒ)、絵画教育(長野静江)、生理衛生、栄養(浦口照子)、ノーマルクラス(レーマン、丸山、功力)、理科(松島龍倉)、音楽(津川道子)、工作(関猛)、劇と朗読(今村寿々代、三上かほる)、童話(福島すみ江)、リズム(レーマン、湯浅治子、霧田鶴)、体育(水木百代)、作法(館れい)、見学(霧田)、ライブラリー(中木美智枝)、ピアノ(宮沢愛、加藤信、木村操、塚本房子)、それに青山学院で新約聖書(松本卓夫)、宗教教育(宮城春江)、賛美歌史(由木康)、コーラス(中田羽後)、二年になって旧約(渡辺善太)と、少人数のクラス(入学当初は20名が卒業時は15名)に何と多勢の先生方、そして内容豊富な授業だったことと、今振り返って見て改めて驚き且つ、先生方に感謝したい。

入学早々ピアノのクラス分けのために、各々が自分の持ち曲をピアノ科主任のミセス、ヘニガー

の前で弾かされた。以後二年間、それぞれの程度に合ったレッスンが厳しく続けられたのだった。秋にミス、レーマンが帰校なさってからは、休暇中に勉強なさった新しい事を、私達にたたき込むようにそれは熱心に指導して下さった。そしてその少し前に留学から帰国されていた功力先生も颯爽として、保育の学問を伝えるべく努力して下さったのがひしひしと私達にもわかった。ミス、レーマンは殊の他、遅刻やレポート提出の期限にきびしい方でいらっしゃったから、一寸でも遅れると即刻「ご相談しましゅう」と仰云った。又カリキュラムは必ずあるはずだけれど、いつも子供を見ていて、子供の要求は何かに応えなければならぬ、それは言葉は勿論だけれど、ピアノを担当する者は、いつでもとっさに要求に応じられるように楽譜を用意し、何でも弾ける状態にいるはずだと、ご自身がよく模範を示して下さった。そして音楽は凡てその時に相応しくなくてはいけぬ、と仰云った。だから美しく優しい曲だからと奏楽に弾いた曲が、礼拝に用いる曲ではないと「ご相談」ではげしく注意されたのが、今だに忘れられないと語る友がいる。「ご相談」には皆随分びくびくしたものだ、良いとなると実に暖かくすぐにお誉めの言葉を下さるのだった。

見学の時間は多くの実習園の他に、学習院、大森めぐみ、阿佐ヶ谷、柿の木坂の各幼稚園、自由学園という教育現場や、松沢病院、興望館、上野動物園、日比谷公園等、多方面にわたって出かけた。大抵の処へは30銭で行ってくれるタクシーに分乗して出かけるのんびりしたものだったけれど、これ又見学記をその都度提出しなければならないので、うかうかしてはいられなかった。火曜日の午前中は青山学院の神学部に向向き、同学年の男女の神学生と共に授業を受けた。当時の神学の第一人者であられた錚々たる先生方のお講義を伺う機会を与えられた事は非常に幸運だった。だが将来牧師となる方への専門的な内容だったから

(特に聖書は)、むづかしくて理解するのに大変苦勞した。流石どの先生の授業もお祈りで始められる厳肅なものであった。2時間目と3時間目の間に、当時珍らしかったパイプオルガンの奏楽で始まる礼拝があって印象深かった。水曜日は女子の神学生が英和に來られ、幼児教育、国文、絵画教育を共に学んだ。交換授業の中で忘れられないのは、神学部のチャペルでのメサイア合唱である。全曲ではなかったけれど、ハレルヤコーラスを最後に歌い終えた時の感動は今も心に残っている。二年あとの学年から日比谷公会堂でも歌ったと聞いている。因みに当時の神学部長は、現在の東洋英和女学院理事長、大村勇先生でいらっしゃった。

タイ国から初めての留学生、チャットラーさんが來られたのもこの年のことである。

二年になってから実習が始まった。クラスが前後期に分かれ、一人が2ヶ所を経験した。麻布十番の伝道所で師範科生のみの実習園、東洋英和、靈南坂、安藤記念、渋谷同胞の各幼稚園、愛清館ナースリースクール等で午前中実習をした。残った半分の者は卒論に備えて資料集めに時間を使い、又英和幼稚園で栄養の実習がてら給食作りをした。日曜日は教会へ派遣され、幼稚科、小学下級のクラスの奉仕を行った。安藤、経堂、靈南坂、駒込、駒沢各教会、愛隣団、二葉保育園等へ遣らされたが、毎週どこかへミス、レーマンが私たち実習生の教師ぶりを見にいらっしゃって、あとで適切な批評を承った。

当時は女学科との交流も多く、月曜礼拝の他に、Y.W.C.Aの活動も一緒だったし、感謝祭、クリスマス礼拝を共にし祝会では劇やページェントも行った。又遠足にも一緒に出かけた。その頃の写真は元院長の故長野弥先生がよく撮って下さった。その他クラブと称して、小学科下級の希望者を集めてゲーム等をしたのは楽しかった。YWの活動で私達の二年の時から、学生YWC Aへの参加を認められ、一、二年2名ずつ御殿場富士岡荘

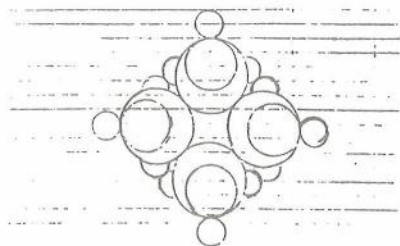
の修道会に出席、全国の専門学校百数十名の集いの中で得たものは大きかった。丁度その頃支那事変が勃発、世の中は少しずつ変わって行った。戦傷者の為の白衣縫製という作業が始められたのはその秋からだ。このような生活の中で、伊豆への卒業旅行は限りなく楽しい思い出である。しかしその後、カナダミッションの伝統ある我が東洋英和女学校も、ミス・ハミルトンが校長の職を辞されると云う事態を迎えたのである。卒業を僅か3ヶ月後に控えていると云う時に、これは大きなショックであった。

卒業した年の夏、野尻のメソジストの施設で開かれた師範科のキャンプに呼びかけを頂いて参加した。功刀先生のご配慮による集いであった。その頃の野尻は交通の便も悪く、荷物は銘銘が持参

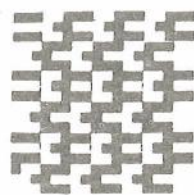
した罐詰や食料の入った重たいのを、馬方さんの引く馬車に乗せて、上野から7時間の古間駅から1時間歩いてキャンプにたどり着いた。十五年の夏迄3年間続けられたこのキャンプも、風雲急を告げる中で翌年は計画のみに終わってしまった。此所で結ばれた師範科の縦の絆は、今も断たれていない。功刀先生とご一緒に指導して下さい、ミス、マクラクランは今もご健在でいらっしゃるだろうか。

二年の時受持って下さった長野静江先生が毎日終礼にいらして、時に応じて話して下さいのお言葉が今も生きて生活の指針となっている。

ガス燈の灯る鳥居坂の2年間、よい時によい師に恵まれ、良い校風の中で育てられた事を心から感謝したい。



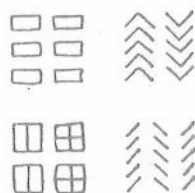
恩物 美麗式



たみ紙 Weavig



きり紙



縫ひ取り

手技の各種

手技の時間のノート(びょうぶ折)の一部より。
故児玉光子様(大6卒)のご寄贈

私が東洋永和女学校幼稚園師範科に入学したのは、昭和17年4月(1942年)でした。その前年昭和16年12月に、日本は米国に開戦の布告をし、大東亜戦争に入りました。それより以前に日中戦争がありましたから、私の学生生活は、戦争のニュースのあけくれのなかですごしたわけです。女学校卒業の時、私は迷わず師範科への入学を思い、受験受付の一日目に早く学校へ行きましたが、受験票が2番だったのをおぼえています。入学試験のことは、断片的にしか思い出せませんが、国語として作文、図画は「お正月の子供たちの遊び」かとおぼえています。私は野原で凧上げをしている子供の様子を書きましたが、もともと若手でしたのでとても困りました。入学してから長野静江先生から、あなた方の画は・・・とお話があり、恥しい思いをしました。何名位の受験生かもわすれましたが、地方からは別で在京の者が一緒に受験しました。当時幼稚園師範科の教室は、女学校の体育場についた別館の明るい教室でした。間もなく女学校拡張のため幼稚園師範科は青楓寮へ移転しました。過日(昭和57年10月)発行されました青楓寮(文集記録)によりますと、私共の時から12年間ここで授業が行われたそうです。師範科生として寮での一期生かも知れません。寮の中に学校の教室があるのは、いかにも仮住いの勉強のようですが、建物が古いせいか、女学校にくらべて全体にくらい感じはありましたが、大へん家庭的であたゝかい教室でした。四階建の青楓寮は、一階二階は寮生の住居で、三階四階が師範科生の教室(校舎)として使われました。学校と言うより“師範科”と言うと“青楓寮”と、きりはなせないものとしてあります。ですから一階入口から入り、三階からの教室へ行

くわけで、寮生の方は一階上が学校で近くてうらやましいと、思ったこともあります。私の級友は、女学科からの方、地方(九州、金沢、静岡、沼津、甲府他、東京出身者と、(現在)韓国より、黒沢恵美子さん(現在、玄恵栄)も加わり、入学時は32名でした。いろいろな事情で途中でやめられた方があり、卒業の時(昭和19年3月)は28名でした。本年は師範科卒業40周年になりますが、3名の友がなくなり25名になってしまいました。当時の師範科生の制服は、女学校と同じでしたが、袴と袖口のラインが3本でした。戦時中でしたがまだスカートも着用できました。後にもんぺ、ズボンになりました。

教室の三階には一年二年の各教室、礼拝室、教員室、ライブラリーがあり、四階には広い教室で合同の授業や、リズムその他で使われました。屋上にすぐ出られて、はるかに山々もながめられ、息ぬきをした所です。ここで授業前に全員で体操をしたこともありました。当時、青楓寮は六本木附近では高層建築でした。

授業は月曜日から金曜日まで、土曜は休日、日曜日は、日曜学校(教会学校)に教師や助手として奉仕をしました。学科目は修身・心理・教育・保育・手工・理科・国文学・音楽・図画・体操・生理衛生があり、一学年では幼稚園見学、二学年で幼稚園の実習がありました。私共の時は、功刀嘉子先生が主任として常時学校にいらっしゃいましたが、他の先生方は、その授業の時にしかお会い出来ませんでした。修身は合同教室(1・2年)お年を召された安井てつ先生でした。授業中の私たち生徒の態度に対しては、いつもきびしい注意をなさいました。心理は高良とみ先生で、とても熱辯ではなして下さいました。国語は女学校

校の鶴沼さき先生。生理衛生は聖ルカ病院から平野みどり先生。音楽はピアノが正科目で、女学校のピアノ室に行き個人レッスンをうけました。6名位の先生方に何名かわけられました。当時師範科で教材になっていました本(リズム)と、あとは生徒の程度によりピアノの本がきめられました。ピアノ室での先生の前でのレッスンは、練習不足でどきどきしました。レッスンは一人20分~30分位だったと思います。図画は長野静江先生で、物のない時でしたがいろいろの制作はたのしいでした。殊に新聞紙をそのまま台にして、その上に紙をはったり画をかくて紙芝居を作ったりしたのは忘れられません。ゲ・エ・キュックリ先生には、お上手な日本語で「フレーベルの恩物」「母の遊戯」を語られ感激しました。功刀嘉子先生の児童研究は実地的でした。様々な性格の幼児が、保育中にいろいろな行動をした時に、先生(指導の立場の者)は、幼児をどう扱ったらよいのか? 実際の場面を展開しつつ授業をうけてゆくのです。口でわかったような答が出来ても、本当にむづかしいでした。手工は珍しく男の先生で板をきったり、色をぬったり、紙をはったりしてならべ板や、ならべる棒など作りました。リズムでは柳江隆子先生(現・大築)でした。歌に遊戯(勿論創作)をつけたり、メロディにあわせ踊ったりたのしいでした。タンポ、の歌(タンポ、タンポ、たんぼのタンポ)や、つばめの歌(つばめのつばめの赤ちゃんは・・)等、なつかしいメロディと共に、若き日を思い出します。談話・劇の指導をして下さいましたのは、YWCAの山田寿々代先生でした。人との対話の時の言葉づかいについては、とてもきびしいでしたが、たのしい時間でもありました。夏休みの或る夜、先生は数名の希望者を四ツ谷にありました「寄席」へつれて行って下さいました。お客さんが少なく、若い私達はとてもおもしろく笑いづくめでした。あれ以来行った事はありますが、テレビジョンで寄席を見る

となつかしくなります。理科は男の先生で授業の他、花小金井の学校農園に行き野菜を作ったり、草むしりに汗をながしました。二年ではお料理の時間があり荒牧照子先生が、寮の台所で実習して下さいました。材料が少ないと言うより無い時代でしたが、いつもおいしい御馳走が出来ました。生徒は毎日お弁当を持って通学していましたが、いつもお昼時は、お互いのおかずをわけっこして食べたことも、今となってはなつかしい思い出です。聖書の時間は合同で小川先生(現柿ノ木坂教会牧師)でした。合同の講義は午後が多かったので、つかれてねむくなり困りました。

校外では青山学院神学部の方々と「メサイア」の練習をするために、青山学院へ度々通いました。初めて英語で歌ったメサイアは感激でした。一学年では幼稚園見学があり、二学年で幼稚園実習がありました。私は永和幼稚園と十番にあった永坂幼稚園へ行きました。永和幼稚園には福島壽美江先生と倉長美枝先生がいらっしゃいました。設備はよく子供達もそろっててまとまっていた。実習生は毎日の保育実習のノートを実習園にだして指導をうけました。実習生として実際に保育のプログラムの中で責任をもち、いろいろ苦勞しながら学ぶことが出来ました。当時鳥居坂を下り左へ曲って左側に、十番の永坂幼稚園としての実習園がありました。二階建てでしたが、鳥居坂教会の伝道所だったときいております。一階が保育室



制服 功刀嘉子先生を囲んで

で二階は寮として使われていました。こゝでの実習は先生も先輩も指導者もなく、全く自主的に保育案を作り毎日をすごすわけです。上手にできてほっとしたり、失敗してがっかりしたり、思いがけない経験もたくさんしました。私の時は三人と一緒に協力しました。この十番での実習保育の歴史は、あの戦争中で終わったのではないのでしょうか。元気があふれてた十番の子供達でした。

戦時中のため私達学生は勤労報国隊として、内閣印刷局へ動員されて勉強を中断させられたこともあります。それでも何んとか二年間の勉強がつづけられて感謝でした。卒業の年昭和19年には、とうとう空襲があるようになり、私達も生命をおびやかされるようになりました。希望をもって社会にでましたが戦時のため東京の幼稚園は間もなく閉鎖となり、戦時託児所と看板がかわりました。いつ起るかかわらない空襲に備え、幼児と共にい

ることは大へんでした。戦争を体験した私共は、平和の尊さを語りつぐ責任があると思います。東洋英和女学院の100年の歴史の中で、「英和」を「永和」にかえて歩んだ時代が、私の学んだ時でした。卒業証書は「東洋永和女学校 校長事務取扱 安井てつ」をいただきました。「敬信奉仕」の母校の精神を持ちつゝ歩みたいと思っています。今の若い方々にくらべますと、たのしみの少ない時代でしたが、あんなたのしい時はなかったと、クラス会に集る一人一人の言葉をきくと、幸いな青春の学びをしてすごせたことは感謝です。級友2人の娘さんが、短期大学保育科を卒業されました。同じ学校で同じ学びの道を進まれる母娘が、これからも多くいらして、保育科をますます栄えさせていたゞけるよう祈りつゝ思い出のペンをおきます。

★幼稚園師範科は昭和19年9月から保母養成科と改称し、同22年度から24年度まで保育専攻部と称した。

★あとがき：師範科生時代をそれぞれ三ヶ所の教室時代に学ばれた三人の文章から、時代と共に歩んできた短大保育科の前身の姿の一端を垣間見ることができました。（短大 藤岡・芝原）

東洋英和幼稚園師範科入學志願者心得(昭和八年度)女學校

一、募集人員 第二學年 約二十名

二、入學資格

高等女學校若クハ專門學校入學者檢定規定第十一條ニヨリ指定セラレタル學校ヲ卒業シタルモノ

三、出願期日

東京受驗者 二月二十四日(金曜)午後
地方受驗者 二月十七日(金曜)午後

四、出願手續

入學志願者ハ入學願書(希望受驗場附記ノコト)、履歷書、費師ノ健康診斷書、學業成績證明書(最終二學年ノ各成績點、總點、平均、席次ノ何人ノ何者ノ欠届日數等記載)等取揃ヘ檢定料金添付シテ(本校ハ差出スベシ)

五、入學考查

(1)期日 昭和八年二月二十五日(土)午前八時三十分
(2)入學志願者ハ考查當日午前八時十五分迄ニ受驗場ニ出頭シ受驗票ヲ交付シ差出シ其ノ指示ニ従フベシ
(3)考查科目 國語、作文、試問(志望、素質、技能等ノ考査)
(4)受驗者ハペン若クハ普通鉛筆及B鉛筆小刀消ゴム等ヲ持参スベシ

六、受驗場

東京 北京市區志願者島居町八番地 責任者女學校
静岡 静岡市西宮町 静岡英和女學校
山梨 山梨市南町 山梨英和女學校
金澤 金澤市南町一丁目十四番地(長井所附) E.A.、M.E.、H.E.、L.E.、P.E.、S.E.、T.E.、V.E.、W.E.、X.E.、Y.E.、Z.E.
前橋 前橋市山形二丁目一三五 E.A.、M.E.、H.E.、L.E.、P.E.、S.E.、T.E.、V.E.、W.E.、X.E.、Y.E.、Z.E.
長野 長野市町十二番地 地持幼稚園 E.A.、M.E.、H.E.、L.E.、P.E.、S.E.、T.E.、V.E.、W.E.、X.E.、Y.E.、Z.E.
秋田 秋田市中山町一六 E.A.、M.E.、H.E.、L.E.、P.E.、S.E.、T.E.、V.E.、W.E.、X.E.、Y.E.、Z.E.
都合ニヨリ受驗者ノ便取ヲ計ラ右以外ニ受驗場ヲ指定スルコトアルベシ

七、合格者發表

三月四日(土)マツメニ合格者共ニ夫々本人現住所ニテ之ヲ通告ス

八、入學者手續

入學者許可セラレタルモノノ三月十五日(水)迄ニ在學證書(合格者ニ送附ス)ニ戶籍抄本(寄留地ノモノニテ可)及入學金賦圖ヲ添テ本校ニ差出スベシ

九、入學式

四月十二日(水)午前十一時ニ舉行ス
(新築落成ノ關係上本學年ニ限リ入學式ハ例年ヨリ數日後ニ)

十、卒業生資格

當院範科卒業生ハ保健ノ無試験檢定ヲ出願スルコトヲ得
(附記)當科生ハ整服若川東製ニシテ組袷下ヲ使用セザルモノトス)

東洋英和 幼稚園師範科學則 (昭和九年一月九日改正)

第一章 目的及修業年限

第一條 當師範科ハ基督教主義ニ基キ幼兒ノ保育ニ從事スベキ保母ノ養成ヲ目的トス

第二條 修業年限ハ貳ケ年トス

第三條 學年ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第四條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 (自八月三十一日)

第二學期 (自九月三十一日)

第三學期 (自三月三十一日)

第五條 休業日左ノ如シ

一、土曜日、祝日及大祭日、地久節、開校記念日

一、夏期休業 (自七月十六日)

一、冬期休業 (自十二月二十四日)

一、春期休業 (自三月二十六日)

第六條 學科課程及每週授業時數左ノ如シ

但每週授業時數ハ時宜ニ依リ多少増減スルコトアルベシ

學科	第一學年	第二學年
學科	第一學年	第二學年
修身	一	三
心理學	一	一
教育	三	二
保育	一	一
手工	一	一
國文學	一	一
音樂	一	一
圖畫	一	一
體育	一	一
合計	三〇	三〇

英語ハ相當素養アリト認めタル者ニツキテ右課程表以外ノ時間ニ於テ之ヲ課ス
其一週時間數ハ適宜之ヲ定ム
備考 保育科中要旨ヲ異ニシテ各教授時數ヲ配當スルモノヲ其分科トナス

第四章 入學及退學

第七條 入學期ハ學年ノ始メトシ募集人員ハ其都度之ヲ定ム

第八條 當師範科ニ入學スルコトヲ得ルモノハ高等女學校若クハ專門學校入學者檢定規定第十一條ニヨリ指定セラレタル學校ヲ卒業シ本校教育ノ主義ニ協ヒ且ツ入學試驗ニ合格シタルモノトス

第九條 入學志願者ハ必要事項ヲ記入シタル所定ノ入學願書ト共ニ左ノ書類ヲ提出スベシ

一、履歷書

一、卒業學校成績證明書

一、身體檢査書

第十條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ相當ノ資産ヲ有シ且ツ東京市内ニ住居シ保證人ノ責任ヲ全フシ得ルモノタルベシ

第十一條 病氣其他ノ事故ニヨリ轉學又ハ退學セントスルモノハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ出願スベシ

第十二條 左ノ各項ニ當ルモノニ對シ除名又ハ退學ヲ命ズルコトアルベシ

一、正當ノ理由ナクシテ引續キ缺席一ヶ月以上ニ涉リタルモノ又ハ缺席多ク其他病氣等ニヨリ成業ノ目途ナキモノ

二、諸規則若クハ命令ニ違背スル行為アルモノ

三、性行不良ニシテ改善ノ見込ナキモノ

第五章 成績調査及證書

第十三條 各學科ノ成績ハ每學期一回之ヲ調査スルモノトス

第十四條 學年成績ハ學期成績評點ヲ平均シタルモノヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 各學科及分科ハ拾ヲ以テ滿點トス 但シ分科ヲ有スル學科ノ成績ハ其分科ノ成績ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 各學科ノ得點五以上平均六以上ノモノヲ以テ及第トシ以下ヲ落第トス

第十七條 各分科ニツキテモ赤同シ

第十八條 最後ノ學年ニ及第シタルモノニハ卒業證書ヲ授與ス

第六章 寄宿費授業料及入學料

檢定料金參照トシ入學願書ト同時ニ納ムベシ

授業料左ノ如シ 但シ學期開始二十日以内ニ共期分ヲ納付スベシ

第一學期、第二學期各金貳拾六圓、第三學期金拾九圓五拾錢

寄宿セント欲スルモノハ寄宿費ヲ毎月二十日限り納付スベシ 但ソノ額ハ別ニ之ヲ定ム

授業料ハ出席ノ有無ニ係ハラズ之ヲ徵收ス若シ納付ヲ怠ルトキハ保證人ヨリ代納セシム

東洋英和女學校

東京市麻布區東島居坂町八番地
電話 赤坂 一七七三番

東洋英和女學院保育專攻部學則

第一章 目的

第一條 本學院保育專攻部は教育基本法を基として幼児保育に従事する女子に必須なる教育を施し且つ其督教に據る人格の陶冶を行ひ以て自由を尊び平和を愛し奉仕の精神に富める者を養成することを目的とする

第二章 修業年限 學年 學期 休業日

第二條 修業年限は二ヶ年とする
 第三條 學年を分けて左の三學期とする
 第一學期 四月一日より 八月三十一日まで
 第二學期 九月一日より 十二月三十一日まで
 第三學期 一月一日より 三月三十一日まで
 第四條 休業日を左の通りとする
 一、日曜日 祝日 大祭日 地久節 創立記念日
 二、夏期休業 七月二十一日より八月三十一日まで
 三、冬期休業 十二月二十五日より一月七日まで
 四、春期休業 三月二十六日より四月四日まで

第三章 教科課程 授業時數

第五條 教科課程及毎週授業時數は左表による 但し時宜により多少増減することあり

學科	第一學年		第二學年	
	時數	週	時數	週
修身	二	一	二	一
心理	一	一	一	一
教育	二	一	一	一
保育	七	一	七	一
手技	一	一	一	一
理科	一	一	一	一
國文學	一	一	一	一
音樂	三	一	三	一
英語	二	一	二	一
裁縫	四	一	四	一
衛生	一	一	一	一
營養學	一	一	一	一
保育實習	五	一	一〇	一
社會科學	一	一	一	一
合計	三一	一	三五	一

第四章 入學 退學 休學

第六條 第一學年に入學することを得る者は 高等女學校を卒業した者 又は之と同等以上の學力があり本學院教育の目的に協ひその入學試験に合格した者とする
 第七條 入學志願者は所定の入學願書並に出身學校長の學業成績證明書 履歷書及身体検査書に入學考査料を添へて差出すこと
 第八條 入學を許可された者は保證人二名を定め所定の保證書に入學金を添へて差出すこと 保證人は入學者の父母親族又は之に代つて一切の責任を負ひ得る者とし内一名は東京都内又はその附近に居住する者であること
 第九條 保證人轉居改名した時或は保證人を變更した時は直ちに届出でること
 第十條 生徒が退學しやうとする時は保證人から其の事由を具して届出でること
 第十一條 病氣又は止むを得ない事由で缺席長期に亘る時は一ヶ年以内を限り休學を許可することがある

第五章 成績査定 卒業

第十二條 各學年の課程修了 又は全學年の卒業を認めるには平素の學業成績を考察して之を定める
 第十三條 本學院規定の全學科課程を修了した者には卒業證書を授與する

第六章 授業料 入學金 入學考査料

第十四條 授業料は月額金壹百五拾圓とし年額壹千八百圓を月割分納するものとす 但し次のやうに分納しても差支へない
 第一期 (自四月至八月) 金七百五拾圓
 第二期 (自九月至十二月) 金六百圓
 第三期 (自一月至三月) 金四百五拾圓
 第十五條 入學考査料は金參拾圓 入學金は金參拾圓とする
 第十六條 在學生は休學中であつても授業料を納付しなければならない 中途退學者は退學届を提出した期日迄の分を月單位に納付しなければならない
 第十七條 本學院寄宿舎に入舎する者は寄宿費を毎月五日迄に納付しなければならない 但しその額は別に定める

第七章 賞 罰

第十八條 在學二ヶ年間無缺席者には皆勤賞狀を授與する
 第十九條 左の各號の一に該當する者は譴責 停學又は退學を命ずることがある
 一、性行不良で改悛の見込みがないと認められたもの
 二、學力劣等で成業の見込みがないと認められたもの
 三、正當の理由がなくて出席常ならざるもの

東洋英和女學院保育專攻部

東京都港區麻布東島居坂町二番地
 電話 赤坂(四)一〇五八番